



いわき市立桶売小学校「学校だより」

おけうり



平成30年12月7日(金) 第33号

<教育目標>

- ☆進んで学ぶ子ども(知)
- ☆健康でたくましい子ども(体)
- ☆みんなで助け合う子ども(徳)

発行者 校長 本名 武



『幸せ』に一番近い人たち

「当たり前」に思うことを「有難い」と気持ち受け止められるようにすることも学校の役割と考えます。ランチルームの黒板に「食材は誰がもってくるのかな」とありました。

安全・安心に気をつけ一生懸命に野菜等を作っている生産者の方々、時間に遅れないよう慎重に山道を運転し食材を届けてくれるの方々、異物等混入しないように気をつけながら愛情たっぷりに調理してくれるの方々、できたての給食を大事に各校に配送してくれるの方々。実際はもっと多くの方々が関わって、「当たり前」のように子どもたちの目の



の前にならぶ給食。メニュー作成や発注、連絡調整等々、全てスムーズにいくわけではありません。そんな中、毎日毎日おいしい給食をいただけるのは、やはり「有難い」ことなのだと思います。学校では、給食指導をとおして、さまざまな気付きと「感謝の気持ち」も育てようとしています。

給食の他にも、当たり前のように学校で自分の教科書・ノートで勉強できること、友達と自由に遊んだり遊具で運動したりできること等、世界に目を向けると、大変恵まれていることに気がきます。



「感謝する人に、幸運は舞い込む」と言われます。チャンスも成功も感謝できる人の扉をノックします。幸せが一番近いところにいる人たちとはどんな人たちなのでしょう。

Aさんは、皆から好かれ人望もあり、仕事も順調で運のいい人、幸せな人です。きれいな花の咲く花壇を通るとき「朝からなんて気持ちいいんだろう、こんな素敵な花々を見られて幸せ」と感じ、こんな気持ちになれたのも「衣服を汚しながらも土作りをした人、苗を植えた人、草取りや毎日の水やりなどお世話した人」たちのお陰だと「きれいな花とその陰にいる人々」に感謝の気持ちを持ちます。

Aさんは、きれいな花から、その後ろに存在する人々の関わりを想像できる「豊かな感性」をもった人でした。だから、心配りや細かな配慮ができ、仕事も人間関係も良好で、日々の事象にも、そこにあるありがたさを理解し、幸せを感じる事ができるのでした。

Bさんは、自分では能力があると思うのに、仕事もうまくいかず、皆からもよく思われていません。自分が運が悪いのは他人のせいと思っています。不幸せに近い人です。花壇の花も目に入らず、イラついた気持ちで花壇に空き缶を投げ捨てます。一事が万事、そういうところを皆が見ているのです。

AさんBさんから、感謝の気持ち、人の関わりを想像できる感性をもつ大切さを教えられます。「アメリカインディアンの教え」という本に「ほめられる中で育った子は、いつも感謝することを知ります」とあります。本人にしっかりとよさを伝えること、照れずにありがとうを伝えること、そのように育てられた子は、感謝の心を大きくし、幸せが一番近い人になっていくのだと思います。



(新) 右下のホームページアドレス、QRコードをご利用ください。

<日々の桶売小の子どもたちの活動・活躍の様子などを写真とともに掲載しています。>



リアルタイム線量測定システムの数値(校庭)

0.089 μ Sv/h 12/7 9:50

(文部科学省HPの放射線モニタリング情報)

<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

桶売小学校 電話0246-84-2230 Fax0246-84-2240

在籍児童数 男6名 女3名 計9名

※ (新) 桶売小HPアドレス
<https://iwaki.fcs.ed.jp/>

※ (新) QRコード → → →

